

矢島 薫先生文化功労章受章に寄せて

矢島基美（72期）

矢島 薫先生の文化功労章受章の報に接し、嬉しくてなりません。

ご承知のように、文化、芸術、科学技術などの分野で著しい功績を挙げた者に授与するものとして文化勲章があります。文化功労章はこの文化勲章授与者に褒賞を与える目的で設けられ、文化功労章受章者から文化勲章授与者が選ばれることになっています。

したがって、先生は文化勲章に次ぐほどの功績を挙げられ、褒め称えられたということになります。それがどれほどのことなのか、ここで改めて申し上げる必要はないでしょう。しかも、先生が私ども上田高校関係者にとってごく身近な存在であるだけに、誇らしささえ、覚えます。

先生と私は同姓ですが、血縁につながるなど、何らかの関係があるわけではありません。とはいえ、どこか縁（えにし）のようなものを感じていたのは事実です。

先生には、上田高校時代、「倫社」の授業を担当いただきました。その授業では4、5名ほどでグループ発表する必要があり、それに関連してであったと記憶しますが、先生にご相談すべく、メンバーの一人と連れ立って職員室をお尋ねしました。

先生は、何か雑誌のようなものを手に取ってお読みなっていて、私どもから声がかかると、いつもの笑顔で応じてくださいました。先生が俳句をたしなんでおられることは耳にしていましたので、本題から外れて、お読みになっているのはその種のものですかとお尋ねすると、そうです、俳句は面白いよとお答えになりました。

その後、歳月を経て、みずからが関与する大学同窓会の俳句会に参加し、あれこれと頭をひねりながら下手な句作を続けることになりました。それには、先生とのかつてのやり取り、ひいては先生の存在そのものが影響していたように思われてなりません。

一昨年10月、上田高校同窓会2023年度会員大会に参加した際、配布されたプログラムに先生のお名前を見つけました。先生が2020年度秋の叙勲で旭日小綬章を授与され、それを受けて招待されていたのです。

まさに高校卒業以来のことなので、ひと言であれ、ご挨拶申し上げたいと思っていたところ、幸いにもその機会をいただくことができました。先生の笑顔はそのまま変わらず、好々爺と呼んでふさわしいご様子を拝見し、感慨一入でした。

今はただ、いつまでもご清栄にお過ごしなりますようお願いするばかりです。その間に私がもっと句作修行をすれば、先生の教えをいただけるだろうかなどと秘かに思いつつ。